

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	吉田町立本名小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	2	2	1	2	1	10	
児童数	38	39	50	41	40	44	2	254	18

研究の概要

1. 研究主題

<p>子どもたちの生きる力を育む学習の創造 ～今一步の学力向上を目指して～</p>
---

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>&lt; 授業の充実を目指した指導体制の工夫 &gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td colspan="2">担任(週3時間TT)</td> <td colspan="4">担任</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">担任</td> <td colspan="2">教科担任(週1時間TT)</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td colspan="6">教科担任(TT)</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">担任</td> <td colspan="2">教科担任(週2時間TT)</td> </tr> </tbody> </table> <p>教師の得意教科を生かした指導による学力向上を目指す。 (高学年の国語科, 社会科, 算数科, 理科を教科担任制)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語は, 週時数が多く, 学業指導もしやすい担任が指導する。</li> <li>児童の理解の状況に差が出やすい算数科をTTで実施する。</li> <li>児童の実態・学習内容によっては, 学年TTや少人数学習等, 指導形態の工夫をする。</li> </ul> <p>より個に応じた指導を展開するために, 一部TTを実施する。</p> <p>&lt; 「読み・書き・計算」の補充時間の設定 &gt; 授業を効率よく進め, 充実させるため。</p> <p>&lt; 授業の充実を目指した指導方法の工夫 &gt; 児童の学力を総合的に向上させ, 「生きる力」を育むため, 国語科・社会科・算数科・理科の4教科で指導方法の工夫をする。</p>								1年	2年	3年	4年	5年	6年	国語	担任(週3時間TT)		担任				社会			担任		教科担任(週1時間TT)		算数	教科担任(TT)						理科			担任		教科担任(週2時間TT)	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年																																			
国語	担任(週3時間TT)		担任																																						
社会			担任		教科担任(週1時間TT)																																				
算数	教科担任(TT)																																								
理科			担任		教科担任(週2時間TT)																																				

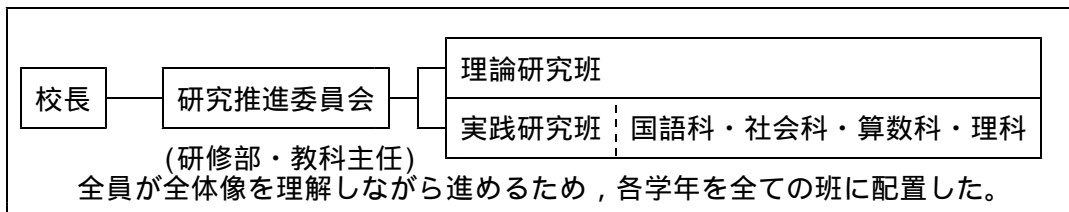
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 子どもたちが生きる力を育む学習の創造 ～今一步の学力向上を目指して～</p> <p>仮説 1 教材研究がしやすい体制(教科担任制やTTの導入)を工夫することで, 教材研究が深まり, 授業が充実するだろう。 2 今一度, 指導方法や教材・教具の工夫を見直すことで, 授業が充実し, 児童の学力が向上するだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高学年における教科担任制, 2年以上への算数TTの導入と指導体制の在り方の研究</li> <li>国語科, 社会科, 算数科, 理科の授業の充実を目指して, 指導方法の工夫の研究</li> <li>「読み・書き・計算」の力をつける場の設定と実施方法の工夫の研究</li> </ul>
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 子どもたちの生きる力を育む学習の創造 ～今一步の学力向上を目指して～</p> <p>仮説 1 教材研究を深める体制（教科担任制やＴＴの導入）や「読み・書き・計算」の補充の在り方を工夫すれば、教材研究が深まるとともに効果的な指導につながり、授業が充実するだろう。 2 今一度、指導方法や教材・教具を見直すことで、授業が充実し、児童の学力が向上するだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力のとらえ方や身に付けさせたい学力を明確にする取り組みの研究。</li> <li>・ 高学年における教科担任制、全学年の算数ＴＴの導入と指導体制の在り方の研究（学級減に伴う１学級の児童数増加のため、個に応じた指導を充実させる算数ＴＴを全学年に拡大）</li> <li>・ 低学年の国語科における一部ＴＴの導入と指導形態の在り方の研究（国語科におけるＴＴの在り方を探るために実施）</li> <li>・ 「読み・書き・計算」の力をつける場の設定と実施方法の工夫の研究</li> <li>・ 国語科，社会科，算数科，理科の授業の充実を目指して，指導方法の工夫の研究</li> </ul>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ(案) 子どもたちの生きる力を育む学習の創造 ～今一步の学力向上を目指して～</p> <p>仮説(案) 1 教材研究を深める体制（教科担任制やＴＴの導入）や「読み・書き・計算」の補充の在り方を工夫すれば、教材研究が深まるとともに効果的な指導につながり、授業が充実するだろう。 2 今一度、指導方法や教材・教具を見直すことで、授業が充実し、児童の学力が向上するだろう。</p> <p>研究内容・方法(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高学年における教科担任制，算数ＴＴなどの指導体制の在り方の研究</li> <li>・ 国語科，社会科，算数科，理科の授業充実を目指した，指導方法の工夫の研究</li> <li>・ 「読み・書き・計算」の力をつける場の設定と実施方法の工夫の研究</li> </ul>
----------------	---

### (3) 研究推進体制



### 平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

<p>&lt; 学力についての理論研究 &gt; 昨年度，学力について検討し，本校の児童の実態を踏まえた学力を明確にしたことで，仮説 1・2 への取り組みがより具体的になった。</p> <p>&lt; 教科担任制 &gt; 平成 14 年度の反省から，次のような形で教科担任制が実施できた。</p> <p>5・6 年 国語科...学級担任（指導内容から担任の方が指導しやすいため） 算数科...教科担任（学級ＴＴを主とし，個に応じた指導をするため） 社会科...教科担任（担任が児童の実態を把握できるように一部ＴＴ） 理科...教科担任（担任が児童の実態を把握できるように一部ＴＴ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ＴＴで行う教科も教科担任が主体で進めるようにしたため，担当教科が絞られ，教材研究，授業の準備が充実し，効果的な授業が展開できた。</li> <li>・ 加配教員による教科担任制にしたため，時間割調整など，学級担任への負担が少なくなり，授業へ集中しやすい体制になった。</li> <li>・ 社会と理科においては，一部ＴＴにしたため，担任も各教科での児童の実態を把握できるようになり，総合的に評価できるようになった。</li> </ul>
---

- ・ 各教科が担任制になったことで、担当教科の学力向上へ向けた教師の責任感が強くなった。

< T Tでの指導体制 >

できるだけ多くの児童に、個に応じたきめ細やかな指導ができるように、次のような形で T T を実施した。

算数（全学年）…学級二人 T T（5 年学級三人 T T）

- ・ 学年三人（学級担任 2 人と教科担任、5 年は教科担任二人と担任）体制にしたため、学年が上がるに従って、児童の実態や指導内容に応じて、効果的な指導形態として、学年 T T や少人数学習等が実施できた。
- ・ 学年 T T や少人数学習などの指導形態の効果や課題も分かってきた。
- ・ 1 年生の段階から個に応じた指導を充実させ、定着を図ることができた。

国語（1・2 年）…一部学級二人 T T

- ・ 1・2 年が、1 学級 3 8 人程度なので、学力の基本である国語において、学習の初期の段階で、授業への集中や内容の定着を図ることができた。

< 「読み・書き・計算」の補充 >

読み…月・水・金の始業から 10 分間「読書タイム」を設定して読書をする。火の業間を「読む力」として音読練習をする。

書き…木の業間を「書く力」として漢字テストをする。

計算…水・金の業間を「計算力」として、基本となる 1 位数同士の四則計算の練習をする。（百マス計算等）

- ・ 全学年、統一した内容で取り組み、どの学年も平均的に向上してきた。
- ・ 毎回の記録を残すことで、徐々に結果が良くなってきていることが教員共に分かり、意欲的になった。
- ・ 授業が効率的に進められるようになった。

< 国語科・社会科・算数科・理科の授業の充実 >

4 教科について重点項目を設定し、日々の授業から意識して取り組んだ。また、研究授業を通して、全体で教育方法改善について検討した。

[ 重点項目 ]

国語科…一単位時間における基礎タイムの設定

ワークシートの活用

社会科…資料活用能力育成の手だての研究

社会科の基礎の定着の図り方

社会科における T T の在り方の研究

算数科…生活に密着した問題（文章問題）の活用による数学的な考え方の育成

算数科における T T の在り方の研究（少人数学習も含む）

理科…科学的な見方や考え方を育てる指導法の改善（問題解決的学習）

実験の基本操作の徹底（操作ビデオやチェックカードの活用）

インターネットの活用

- [ 国語科 ]
- ・ 基礎タイムを設定することで、「読み・書き」の練習ができた。
  - ・ ワークシート活用の目的を明確にし、効果的な活用の検討ができた。
  - ・ 低学年における T T の在り方について検討することができた。
  - ・ 作文指導の在り方について、検討することができた。

- [ 社会科 ]
- ・ 地域人材の活用方法を検討することができる。
  - ・ 地域人材へのインタビューという方法の調べ活動を児童に体験させるとともに、教師の支援（T T も含む）の在り方について検討することができた。

- [ 算数科 ]
- ・ 社会科で最低限定着させたい事柄を検討し、明記することができた。
  - ・ T T における基本的な教師の役割を検討することができた。
  - ・ 学習形態のそれぞれのよさや課題を検討することができた。
  - ・ 生活に密着した課題を扱うことで、生活に生かせる算数を児童が意識することができた。

- [ 理科 ]
- ・ 科学的な見方や考え方を培っていく問題解決的学習を検討することができた。
  - ・ 実験の基本操作の補助をするカード等の活用で、自ら操作をすることができ、定着を図ることができた。
  - ・ 理科における T T の在り方について検討することができた。

< 児童の変容 >

児童の自己評価と教師の意見、C R T の結果から変容を探った。

- ・ C R T では、全国通過率を上回る観点が少しずつ増えてきている。
- ・ 児童の自己評価、教師の意見、共に「向上した」「少し向上した」が合

わせて、7割近くになっており、学力の向上がうかがえた。

- ・ 児童は、教科担任制で教師が替わることが、「分かりやすい」と感じたり、「多くの先生と学習できる」という意欲へつながったりしている。

## 2. 今後の課題

### <教科担任制>

- ・ 担当教科が多くなるため、時間割の枠組みが大変だった。
- ・ 加配による教科担当は、加配教員が複数必要になる。
- ・ 1単位時間の弾力的な運用ができない。

### <TTでの指導>

- ・ 低学年のTTは担任と児童との関係が強いため、今後、検討が必要である。
- ・ 習熟の程度によるグループ編成をする場合、児童、保護者の理解を得る努力をしなければならない。

### <「読み・書き・計算」の補充>

- ・ 活動内容がマンネリ化してきているので、常に新鮮で、意欲的に取り組むための内容の工夫が必要である。
- ・ 計算の場合は、学年に応じた内容も盛り込んでいく必要がある。

### <国語科・社会科・算数科・理科の授業の充実>

- ・ 4教科にわたっての研究のため、各教科の全体での研究の機会が少なかった。また、各担任や教科担任にまかせている部分が多く、全体での共通理解をもう少し図る必要がある。

### <児童の変容>

- ・ 児童の変容を把握するために統一されたもの（学力を計るもの）を作ることが難しい。そのため、児童の変容を把握することが難しい。

## 学力等把握のための学校としての取組

- 1 アンケート.....児童と教師に学力向上についてのアンケートを実施する。
- 2 標準学力検査... 2月上旬にCRT検査を実施する。  
3月は、CRT検査の結果を受けて、個別補充の月とする。  
CRT結果を分析し、学年、学校の傾向を把握する。
- 3 評価テスト.....各单元ごとの評価テストでの実態把握と事後指導の実施する。
- 4 読み・書き・計算...実施したときの記録（点数や時間）を残し、教員共にその成果を把握する。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究成果普及のためのHP作成予定  
各学校からの研修視察への積極的対応(教科担任制への関心が大きい)  
平成16年度に研究公開予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下             7～12学級  
                              13～18学級             19～24学級  
                              25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導             T・Tによる指導  
                              一部教科担任制         その他
- 【研究教科】             国語             社会             算数             理科  
                              生活             音楽             図画工作       家庭  
                              体育             その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無